

郡山市の所得階層別納税義務者数の分布と所得格差

図1 2024年度所得階層別納税義務者数とローレンツ曲線(*1)

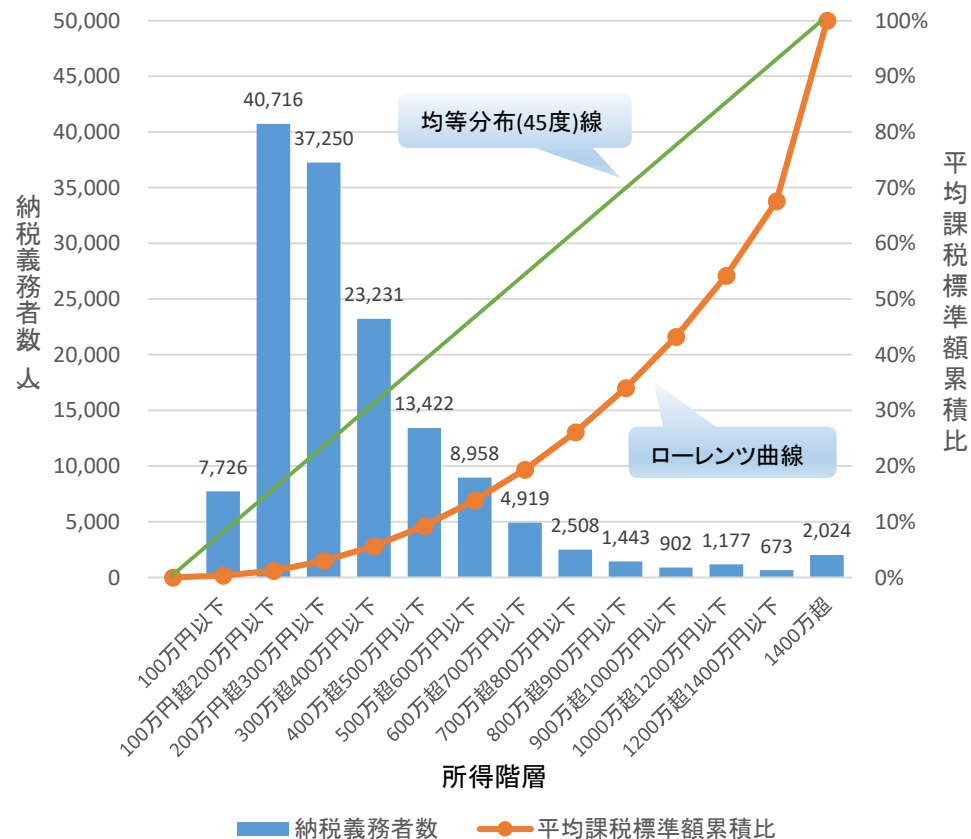
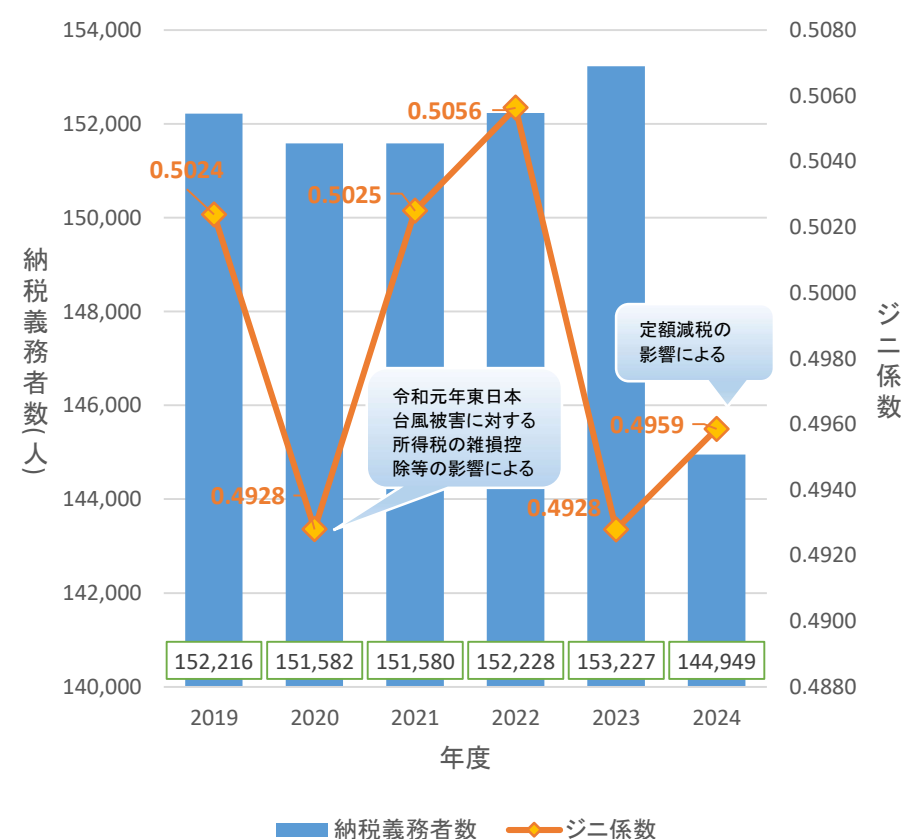


図2 年度別納税義務者数とジニ係数(*2)の推移



- *1) ローレンツ曲線：郡山市における市県民税の所得割のかかる納税義務者を所得階層順に並べ、各階層毎一人当たりの課税標準額の累積比率をグラフ化したもの。
均等分布(45度)線からの離れ具合により所得の格差を表し、格差が小さいほど45度線に近づき、格差が大きくなるほど下方に大きく膨らむ。
図1は、2024年度の本市における所得階層毎の市県民税納税義務者数と、一人当たりの課税標準額による格差状況を表したものである。
- *2) ジニ係数：ローレンツ曲線の膨らみ具合を数値化したもので、数値が小さいほど所得格差が小さく、大きいほど格差が大きいことを表す。
図2は、本市における直近6年間の、市県民税所得割のかかる納税義務者数とジニ係数の推移を表したものの。

2023年度の納税義務者数は2022年度より約1000人増加し、ジニ係数はやや小さくなった。これは指標となる平均課税標準額が、100万円以下の所得階層で減少し、一方で100万円超の各階層の多くが増加したためであり、コロナ禍からの経済回復が進んでいるとも考えられる。

なお、2024年度は定額減税が実施されたため、過年度と乖離した数字となっている。

注意！)この結果は、いわゆる「所得の再分配(他の税や社会保障等による再分配等)」前のものであり、厚労省の調査では、再分配後の格差は通常30%程度低くなる。